

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 12 月 13 日作成)

小委員会名	環境配慮型都市デザイン検討小委員会		主 査 名：吉田 聡 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (都市環境・都市設備運営委員会)		委員長名：田辺 新一 主 査 名：下田 吉之
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	・低炭素都市づくり、スマートシティあるいはスマートコミュニティ等に象徴されるように、現在様々な都市で環境配慮型都市づくりが進められつつある。この社会動向に対して、都市環境工学研究分野から如何に貢献できるか、これまでの研究の蓄積を再整理するとともに、新たに取り組むべき課題、デザインにつなげる方法について都市環境デザインフォーラムの企画を通じて議論する。		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	吉田聡 (横浜国立大学), 増田幸宏 (豊橋技術科学大学), 三坂育正 (日本工業大学), 竹林英樹 (神戸大学), 田中貴宏 (広島大学), 赤川宏幸 (大林組技術研究所), 宮崎ひろ志 (関西大学), 原英嗣 (国土舘大学), 小柳秀光 (大成建設技術センター)		
設置 WG (WG 名：目的)			
2013 年度予算	100,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価		
委員会開催数	5	回 (年度内計画を含む)	
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)			
講習会			
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	第 2 回都市環境デザインフォーラム		参加者数計 121 名
大会研究集会			
対外的意見表明・パ ブリックコメント等			
目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)	1. 都市環境デザインフォーラムの企画を本小委員会で担当し当初目標を十分に達成した。ただし、フォーラム開催という成果については、主催の都市環境・都市設備運営委員会となる。		
委員会活動の問題点 ・課題			

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。
- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>本小委員会は、都市環境・都市設備運営委員会が主催する都市環境デザインフォーラムの企画を通して、低炭素都市づくり、スマートシティあるいはスマートコミュニティ等に象徴されるような、現在様々な都市で進められつつある環境配慮型都市づくりに対して、都市環境工学研究分野から如何に貢献できるか、これまでの研究の蓄積を再整理するとともに、新たに取り組むべき課題、デザインにつなげる方法について議論し、成果を発信していく使命を持っている。</p> <p>2013 年度は、「スマートな都市について考える」というテーマで第 2 回都市環境デザインフォーラムを企画し、2013 年 11 月 11 日に開催した。参加者は 121 名（登壇者などの関係者を入れると約 140 名）であった。NEDO 諸住様の基調講演「スマートシティ、スマートコミュニティの動向」に始まり、パナソニック株式会社藤井様、日産自動車株式会社二見様、三井不動産玉置様、横浜市信時様の 4 名の講師から各界でのスマートに関わる取り組みを紹介いただき、今後の都市の将来像についての有意義な議論を行った。様々な分野の取組みを紹介頂けたことから、日本建築学会の都市環境・都市設備分野の今後の活動、ならびに当日の参加者にとって有益なフォーラムとなったと考える。</p> <p>また、このフォーラムの企画に際して、都市環境・都市設備の各分野で「スマートな都市」についての議論を行い、各分野での研究蓄積の現状把握と課題整理がなされた点は評価したい。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。